富士川

特集号　昭和44年9月1日

富士川町役場発行
富士川町岩渕121番地
電　(61)　1　1　1　1

岩渕駅を「富士川」にしよう

町民の声に町、町議会動く

岩渕駅舎改築（43年12月号3Pに詳報）はいよいよ十月から着工されることになりました。

新駅舎は来年三月に完成の予定で、現在の駅舎のすぐ隣り、蒲原寄りに鉄筋三階建てで施工されます。

富士駅と同じ橋上式駅で、出・改札に待合室は三階、二階は低い中二階で従業員室等、一階は貨物、手・小荷物扱い所となります。

また、東口への長さ六十六メートルの通路が作られます。

さて、時あたかも岩渕駅開設八十年、町村制施行六十八年の記念すべき年にあたって新駅舎の誕生を迎え、町民皆さんから、この機会に町名と同じ〃富士川駅〃の実現を望む声がみなぎってきています。

町当局は、この点、慎重に検討を重ね、八月二十八日の町議会全員協議会にはかり、岩渕駅を富士川駅に改名する陳情運動推進を決定しました。

その結果、町および町議会は、町内各種団体等を通じ、町民皆さんに改名の理由を説明し、広い賛意のもと、国鉄総裁、中部支社、静鉄局など関係方面に陳情することになりました。

「岩渕駅を富士川駅にしよう」

この大きな運動には、町民一人でも多い協力が必要です。新駅舎に新駅名、わたくしたちの町、富士川町を全国に知らせる唯一絶好のチャンス、巨費を投じても成しえぬ知名度の向上を考えるときです。

岩渕とした理由

国鉄岩渕駅は、明治二十年停車場の設置となり、同二十二年新橋静岡間の鉄道開通以来、現在まで八十有余年を経過しています。

当時は、富士川の舟運が盛んで岩渕村は、岩渕河岸を起点に甲州との交通で繁栄し、現在、町の大字になっている中之郷村、木島村をしのぐ勢いをもっていました。

また、従前も東海道の交通要地として脇宿場を形成し遠国の人たちにもなじまれ、〃岩渕〃はこの両者をもって全国に知られていました。

駅舎が中之郷地内に設置されても岩渕駅としたのは、このような理由からだといわれています。

○当町は、明治22年町村制の施行により、岩渕村外四ヵ村（北松野村・南松野村・木島村・岩渕村中之郷村）が廃され、新しく富士川村（木島村・岩渕村・中之郷村を合併）と松野村（北松野村・南松野村を合併）となり、明治34年町制施行により富士川町、昭和32年町村合併で松野村を編入して現在に至っている。

なぜ富士川としたいのか

躍進富士川町の玄関口にふさわしい近代的建物に生まれかわり、町村制八十年の歴史を飾る町政史上画期的な一大事業を進めるにあたり、町民皆さんの関心も深く、全国屈指の河川の名〃富士川〃、歴史上あまりにも有名な源平富士川合戦の〃富士川〃、富士川町と同名の〃富士川〃を望む声が多数の人たちから叫ばれています。

いままで町名と駅名と一致していないため、各方面にわたって不便、不利益をもたらし、自治行政のうえからも商工業の発展、観光開発にきわめて支障を生じていました。

また、岩渕という名称は全国にいくつかあり、富士川という名はここにしかありません。

せっかく長年町民の宿願である駅舎改築を前に、駅名をぜひ変更しようという機運は、すでに熟しきっているともいえましょう。

要望を結集

駅名変更は決して容易なものではありません。「富士川駅」実現は、住民の燃えあがる要望を背にした陳情運動にかかっています。

東名道

富士川サービスエリア標識の フジガワをフジカワに

町、道路公団に訂正申入れ

東名高速道路「富士川サービスエリア」「バスストップ」の標識は、開設以来、ローマ字で**フジガワ**となっており、早くからその濁りをとって正式呼び名の**フジカワ**とすべきだと一部の町民皆さんから指摘されていましたが、町はこのほど公式に日本道路公団高速道路東京管理局に対し、要望書をもって訂正方を申し入れました。

全国の河川名でカワと清く発音するのはごくまれで、「**フジカワ**」は、清流富士川を表徴するにふさわしいものとして、わたくしたちの心のふるさとと大切に扱い、かっ誇りにして、父祖から受継いできている呼び名です。

それだけに、ラジオやテレビでフジガワと放送される都度、どこかの川、どこかの町のような妙な白白しさを感じさせられ、一方、フジカワと正しく発音するアナウンサーに親近感を覚えさせられます。

わたくしたちは、富士川も富士川町もともにフジカワと呼んでいますが、なお公には、日本行政区画便覧にはっきりと「フジガワ」としるされ全国に紹介されているところです。

中川町長談「数多い東名利用者に正しい呼び方をしていただきたいため訂正を要望しました。日本語の発音、抑揚は微妙なもので、フジガワでは、とても富士川と富士川町の性格を表現することはできません。

放送局等にも正しい発音の使用を申し入れます。」

町民皆さまへ

富士川町長
中川国兵

わたくしは、昭和三十九年七月、町長に就任、四十三年七月に再選されて計五年を経過、この間、皆さんの信任を背景にして三保育園の開設、第一・第二幼稚園、第一・第二小学校全面改築および各校・園庭の整備、二小・二中プール建設等教育・保育施設の改良拡充を実施することができました。

また、日常生活の基盤である水を確保するため、従前の上水道、簡易水道の改善、あるいは新設を進め、今後の人口増にも十分対応できる態勢を整えました。

県道富士宮由比線開通を促進し、町道・農林道・排水路関係においても、改修、新設しています。

昭和43年度から三カ年継続事業として、近代化農業への脱皮と農業後継者育成のために農業構造改善事業を実施中です。

都市計画街路事業も岩渕小池下線縦貫道路については、国道バイパス完成時を目標に昨年は用地の確保を終り、本年度盛土工事の実施をみるのであります。また、当町の排水問題の根本策として、小池川の大改修工事も下流より年々改修され、富士川町地区の改修に取りかかる段階となっており、過日の集中豪雨禍を再び見ないため、九月中に実施される国道のカサあげ工事の排水計画とにらみ合わせて、万全の処置をとりたいと思います。

本年度の大きな事業としては町の玄関口、岩渕駅改築があげられ、鋭意この完成に努力していますが、事業達成のために法人、一般特志者に協力を依頼しましたところ、大半のご支援を得ることができ、深く感謝しています。ひるがえってみますと各校・園舎全面改築、プール建設等にも皆さんのご厚志を賜わり、町政へのご理解、ご鞭達をひしひしと身に感じさせられます。

さて、本紙特集号に掲載されましたように、駅名変更、サービスエリアの標識変更については、行政上の大きな利益を獲得し、わたくしたち固有の文化を守るためにぜひ必要な措置として運動を推進したいと思います。

最近の町行政の特異な点は、全国的傾向をはるかに越えた公害問題をかかえていることで、大気汚染問題、交通公害、山砂利対策とどれ一つをとっても、その解決にはすぐれた知識と開拓能力、長い歳月、多額な経費が要求されます。しかし、ことは農林産物や家屋の被害だけにとどまらず人命にかかわる危険性を内包していますから、明るい富士川町建設のためにはぜひこの壁を突き破らなければなりません。たいへんな難問題といえますが、全国世論と国・県の施策を鋭く洞察し、町民一丸となった力をもって対処すべきだと考えています。

東電火力設置反対運動に示される「郷土のため－子や孫のために」の愛町精神がある限りわたくしたちの富士川町は発展し続けることでしょう。